



## 事故ゼロ・品質向上への取り組み ～揺るぎない経営基盤の確立～



西部電気工業株式会社

### 1. はじめに

弊社は今年7月3日、創立70周年の節目を迎えました。

1947年、福岡市に無線施設建設・保守の「西部電気通信工業株式会社」を創立。同年熊本市に本社を移転。その後順調に業容を拡大するとともに、九州各県での拠点整備も進め、2010年には創立の地である福岡市に本社を再移転しました。

現在は地元九州のICT社会を情報インフラ整備の面から支えるとともに、長年培った豊富な経験と最新の情報通信技術（ICT）で、高度化・多様化する情報社会の整備に貢献しています。

昨年度スタートした中期経営計画（2016～2018）～Challenge&Change～では「収益構造の変革による経営基盤の確立」と「安定配当＋収益連動配当の実施」を2本柱に据え、さらなる躍進に向け取り組んでいます。

### 2. 安全品質推進本部を発足

西部電気工業グループでは、『安全衛生方針』『品質方針』（図1・2）を掲げて「人身・設備・交通（加害／自損）事故ゼロの達成」および「お客様に信頼される品質の提供」に取り組んでいます。

NTT事業部門・民需系事業部門の安全推進に関する一元体制を構築し、全社として安全推進の一層のレベルアップのため、平成28年7月に「安全品質推進部」から「安全品質推進本部」へと新体制に移行しました。

具体的には、民需系事業部門の安全施工のバラツキをなくし、事業規模拡大に伴うさらなる安全品質体制の強化を図るため、新たに民需系安全担当を新設しました。

また、NTT事業部門については構造改革ガイドライン導入に伴う現場安全管理体制の定着を図るため、NTT事業部門に対して監視機能を有する組織体制に見直しました。



創立70周年

#### 安全衛生方針

安全なくして、事業の発展はない。事故が発生しない職場環境を作ること。  
そして、その持続的実現に向け、当社の工事に従事する全従業員は、

■ 決められたルール・手順を順守し、基本を忠実に実践する。

■ 作業にひそむ危険を事前に把握し、危険要因を排除して作業する。

■ 今のやり方、仕組みに改良点はないか常に考え、改善提案を行う。

図1 安全衛生方針

#### 品質方針

お客様の要求する品質規格とサービス水準を常に満たすこと。  
そして、その持続的実現に向け各組織は、

安全、法令順守を第一に効率的な品質保証体制を確立し継続的な改善を行うことによりお客様の高い信頼を得られる品質を提供する。

図2 品質方針



図3 位置情報ツール概要



図4 現場操作レス映像伝送システム

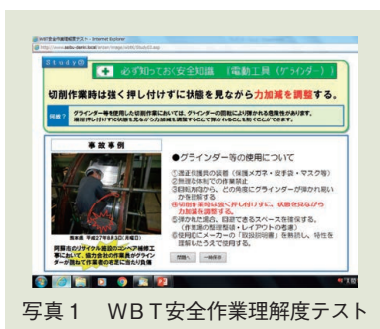


写真1 WBT安全作業理解度テスト



写真2 感電事故防止に向けた体感研修ビデオ

を活用し、リスク管理（人・物・環境・管理等）および安全パトロール時の履行確認に反映し対策強化に努めています。

※注 過去事故事例の棚卸しによる再発防止支援ツール。NTT九州カンパニー施策

## (2) 指差し呼称の徹底

ヒューマンエラーを防止する対策のひとつとして、指差し呼称のさらなる定着・充実のため、不履行の場合は改善指示を发出し改善報告を求めることとしました。

## (3) 構造改革ガイドライン（安全施工サイクル）の取組み

全班月1回以上のパトロール実施に向けて、新たな仕組みを取り入れて取り組んでいます。

### I. 位置情報ツールの導入

アクセス班、ユーザー班、オンサイ

ト保守班の各作業班の作業場所をタイムリーに把握し効率的なパトロールを実施するため、内製化でGPS位置情報を活用したシステムを構築し取り組んでいます（図3）。

### II. パトロールの「質」「量」の改善

「現場操作レス映像伝送システム」を内製化で構築し、全安全専任者に配備したタブレット端末を活用しパトロールの「質」と「量」の改善に努めています（図4）。

## (4) 人身・設備事故絶滅に向けたICTの活用

過去の事故事例に基づく「WBT教材」「ビデオ教材」等を作成し、社内イントラネットを利用したWBT研修等を実施し、類似事故の再発防止に努めています。

### ◇「WBT安全作業理解度テスト」

わが社で発生した人身事故、法律で定められたものおよび知っておくべき基本的知識のカテゴリーによる全21問で作成（写真1）。

### ◇「感電事故防止に向けた体感研修ビデオ」（認定会社等へ展開）

実際の感電シーンを疑似体験し、本当の電力の怖さを知ることができる内容で制作（写真2）。

## 5. 安全品質向上のための人材の育成

### (1) 安全専任者コア人材の育成

安全専任者育成体系の確立による認定制度を導入し、

## 3. 協力会社の認定制度見直しによる安全・品質の強化

平成25年7月にサービス総合工事の資格審査項目を「経営規模」「施工能力」「安全管理」「品質管理」等を反映した制度に見直し、23社を12社に大括りし認定会社を代表とするグループ化を図り、西部電気工業グループ一体となり安全・品質の強化に取り組んでいます。

## 4. 過去の事故を踏まえた取組み

「人身」「設備」「情報」「交通」の事故絶滅に向けては、NTT事業部門・民需系事業部門において、トップから現場第一線まで安全意識の高揚を図り、基本動作の徹底に向け各種安全施策に取り組んでいます。事故の絶滅には至っていない状況にあります。

「現場作業における基本動作の徹底と習慣化」および「安全施工サイクルの確実な履行」により「類似事故を絶対に起こさない」という強い意志を持ち、過去の事故の振り返りによる再発防止の仕組みを加え、作業員1人ひとりの基本動作の徹底等、事故絶滅に向けて取り組んでいます。

### (1) 類似事故の再発防止

現場第一線の従事者1人ひとりに基本動作の重要性を理解させるとともに、「他山の石」置換え支援ツール<sup>※注</sup>

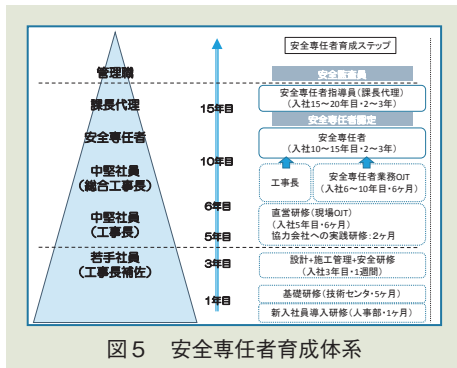


図5 安全専任者育成体系

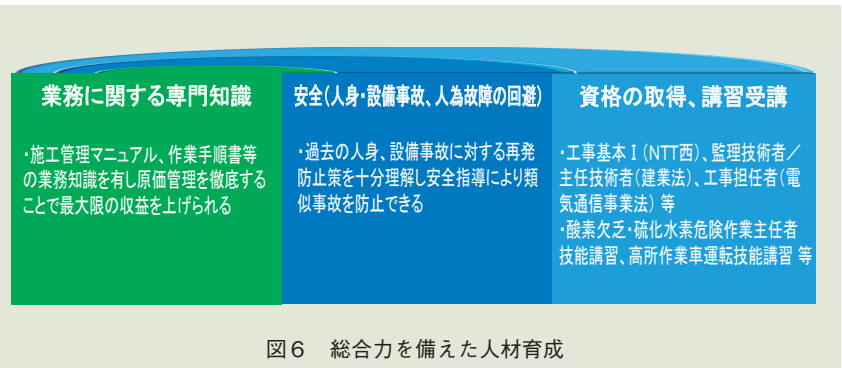


図6 総合力を備えた人材育成

コア人材の育成に努めています (図5)。

(2) アクセス系社員の人材育成による業務遂行能力の向上

工事における安全品質確保を基本に、より効率的な業務運営を目指して設計および施工管理業務に関わる人材育成の充実・強化に努めています (図6)。

(3) 「社内設計検討会」開催による設計者のスキル向上

「社内設計検討会」(元請・認定会社等参加)を開催し設計品質の向上を図っています。

平成26年9月に第1回をスタートし平成29年2月に第6回目を開催しました (写真3・図7)。

**目的**

- 西部電気工業グループ設計者のスキルと安全意識の向上
- ◇設計力・提案力のさらなる向上
- ◇最新情報共有および安全性を考慮した設計の重要性について再認識
- ◇設計者のモチベーションの向上

**競技内容・ポイント**

1. 設計 ◇実施設計問題<2時間>
  - ①安全設計の取組み
  - ②経済設計の取組み (メタルコスト削減を重視)
  - ③KK運動の取組み
2. 算定 ◇4択問題10問 (1時間)
  - ①間違いやすい工程適用事例を解説
  - ②工程名変更の周知および再確認

(4) 「光通信工事技能競技会」西部電気工業グループ予選会開催による技術者のスキル向上

本予選会は、元請・認定会社等から毎年約40名が参加し、西部電気工業グループの技術者のスキル向上を目的として開催しています。今年度も第12回の予選会を平成29年5月23日(火)に開催しました。

出場者全員に対して、競技会での結果を踏まえ、「欠点の多かった箇所」「個々の強み、弱み」等のフィードバックを行い、西部電気工業グループ全体の技術者スキルの向上に努め品質向上に取り組んでいます (写真4)。

(5) 直営工事研修実施による現場力強化および認定会社等への派遣

「安全・品質に対する“目利き”“指導”ができる工事長の育成」を目的として、平成24年度から年2回(1期6カ月間)の直営工事研修を実施し「個人」「組織」「グループ」の力を結集した現場力強化に努めています。

前半の3カ月間で、直営工事で必要な知識(設計～外線～接続～宅内までの一連の作業)を座学・実技で研修し各種資格取得した後、後半の3カ月間で、アクセス系サービス総合工事等で、多岐にわたる作業環境での「直営



写真3 第6回社内設計検討会の模様

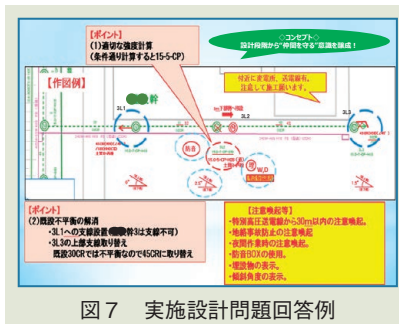


図7 実施設計問題回答例



写真4 競技会模様



写真5 座学・実技模様



写真6 直営工事模様

工事」を経験することで、「現場最優先」で活躍できる人材の育成を行っています。

平成28年度10期生で、社員（グループ会社含む）延べ約100名が研修修了しました（写真5・6）。

また、直営工事研修終了後、現場実態等の把握を目的とした認定会社等への派遣（2カ月程度）を実施しています。

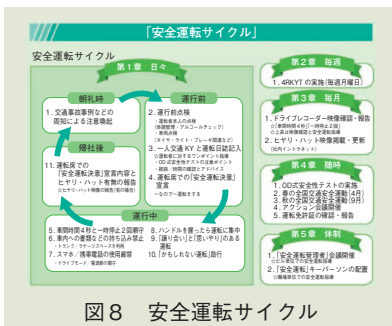


図8 安全運転サイクル



図9 ドライブレコーダー映像収集自動化システム

## 6. 交通事故絶滅に向けた取組み

### (1) 「安全運転サイクル」による強化施策の展開

交通事故絶滅に向けては、「ドライブレコーダー映像の徹底活用」「安全運転適正テスト結果の徹底活用」等に取り組み、1人ひとりの安全に対する意識の向上が図られ、平成25、26年度と増加傾向にあった発生件数は、平成27、28年度には連続して減少しました。

平成29年度の強化施策として、「安全運転サイクル」を掲げ、安全運転に関する意識の醸成および運転者に対する上長からの指導の充実を図っています（図8）。

### (2) 交通事故絶滅に向けたICTの活用

クラウドサービスを利用した「ドライブレコーダー映像収集自動化システム」を内製化で開発し、導入経費、ランニングコストの節減を図り、交通事故絶滅に向け取り組んでいます（図9）。

#### <具体例>

- ・通信機能を有したSDカードのデータをサーバに読み込み抜き差しを不要とする  
(映像、GPSデータ、Gセンサー情報を駐車場に設置しているアンテナから自動送信)
- ・GPSデータ（位置、走行経路等）に基づき車両管理を実施
- ・運転データ（走行速度等）の解析に基づく「記録レポート」（診断書）を作成し安全運転教育に活用

## 7. 現場からの課題提言活動（対話会）の取組み

「安全・品質の西部電気工業グループ」を目指す取組みの一環として、現場における課題の抽出・対策・定着を具現化し、職場における課題等の早期解消に努めることを目的として、支社長、事業部長等と施工管理担当者等社員との毎月定例の直接対話会、「現場からの課題提言活動（対話会）」を開催しています。

平成28年度は、NTT事業部門・民需系事業部門を対象として、延べ246回の開催、約3,600名が出席しました。職場課題の早期解消はもとより、対話会等を通じて、「安全」「品質」の確保は会社が存続するために必要な企業力のひとつであるとの認識が社員1人ひとりに浸透しています。

## 8. おわりに

平成29年度は、「類似事故の再発防止および指差し呼称徹底の取組み」「安全品質の均一化に向けた取組み」「構造改革ガイドライン（安全施工サイクル）の取組みの定着」を柱として、事業運営の円滑な推進に向けた一層の安全確保および品質向上の徹底に取り組み、西部電気工業グループの明るい未来を実現するため、全社員一丸となって、安全品質を第一として揺ぎない経営基盤を確立するために最善を尽くしてまいります。